様

いわき地域の現状と復興に向けた取組について

令和4年12月

福島県いわき地方振興局　復興支援・地域連携室

説明の概要

- 福島県全体といわき市の被害状況
- 震災直後のいわき地域／
  いわき地域の復旧・復興
- いわき地域の現状
- 現在抱える課題
- 震災後の新たな取組

■福島県全体といわき市の被害状況■

東日本大震災の被害状況			令和4年5月12日現在
			単位：人
		福島県全体	いわき市
死者	直接死	1,831	330 （死亡認定を受けた行方不明者を含む）
	関連死	2,333	138
	合計	4,164	468
行方不明者		0	0
浸水面積		112.0㎢ （山手線内の約2倍）	15.0㎢
全壊		15,468棟	7,902棟
半壊		83,309棟	42,399棟 （大規模半壊含む）

ふくしま復興のあゆみ＜第31.1版＞／いわき市災害対策本部週報／いわき建設事務所管内被災状況及び復旧・復興状況より

■震災直後のいわき地域■

津波被害と火災に見舞われた久之浜市街写真
手前は大久川に架かる蔭磯橋
（H23.3.11 15:50ころ 石川弘子氏提供）

福島第一原子力発電所事故後、外出を控え
静まりかえったいわき駅前
（H23.3.16 FMいわき撮影）

生活物資を買い求める人々の長い列
（H23.3.12 いわき民報社提供）

「東日本大震災から1年 いわき市の記録」・「いわき市・東日本大震災の証言と記録」・「東日本大震災・いわき市復興のあゆみ2013」より

■いわき地域の復旧・復興■

震災後１年を待たずに全面オープンした
スパリゾートハワイアンズ
（H24.2.8 いわき市撮影）

にぎやかさの象徴、いわき駅前の「いわき踊り」
（H25.8 いわき市撮影）

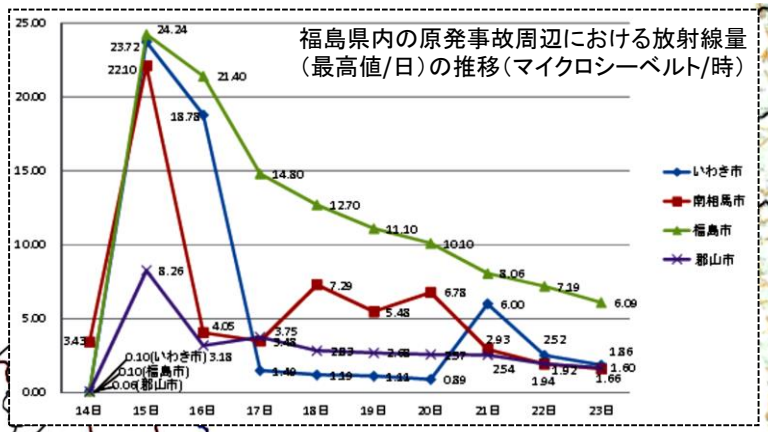
「第7回太平洋・島サミット」がいわき市で開催。
各国首脳を歓迎　（H27.5　いわき市撮影）

「東日本大震災から1年 いわき市の記録」・「いわき市・東日本大震災の証言と記録」・「東日本大震災・いわき市復興のあゆみ2013」
「東日本大震災・いわき市復興のあゆみ2014」・「東日本大震災・いわき市復興のあゆみ2015」ほかより

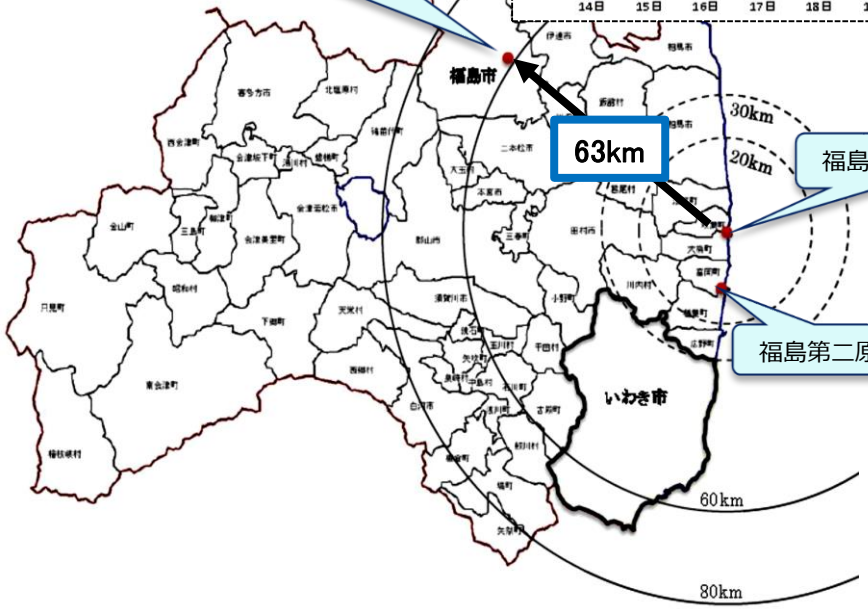
■いわき地域の放射線量■

- **事故直後の平成23年3月15日午前4時、最高値23.72マイクロシーベルト／時を記録（県いわき合同庁舎駐車場）**
- **令和4年11月30日現在、平均0.06マイクロシーベルト／時（平常値レベル）**

福島県放射能測定マップ　http://fukushima-radioactivity.jp/pc/



【福島県庁】 福島市
・福島第一原発より　北西　約63km
・平均0.12μSｖ/h（R4.11現在）



【いわき合同庁舎】 いわき市平
・福島第一原発より　南南西　約43km
・平均0.06μSｖ/h（R4.11現在）

※原発からの距離ではなく、当時の風向きや雨などによって、放射線量に違いが出ている

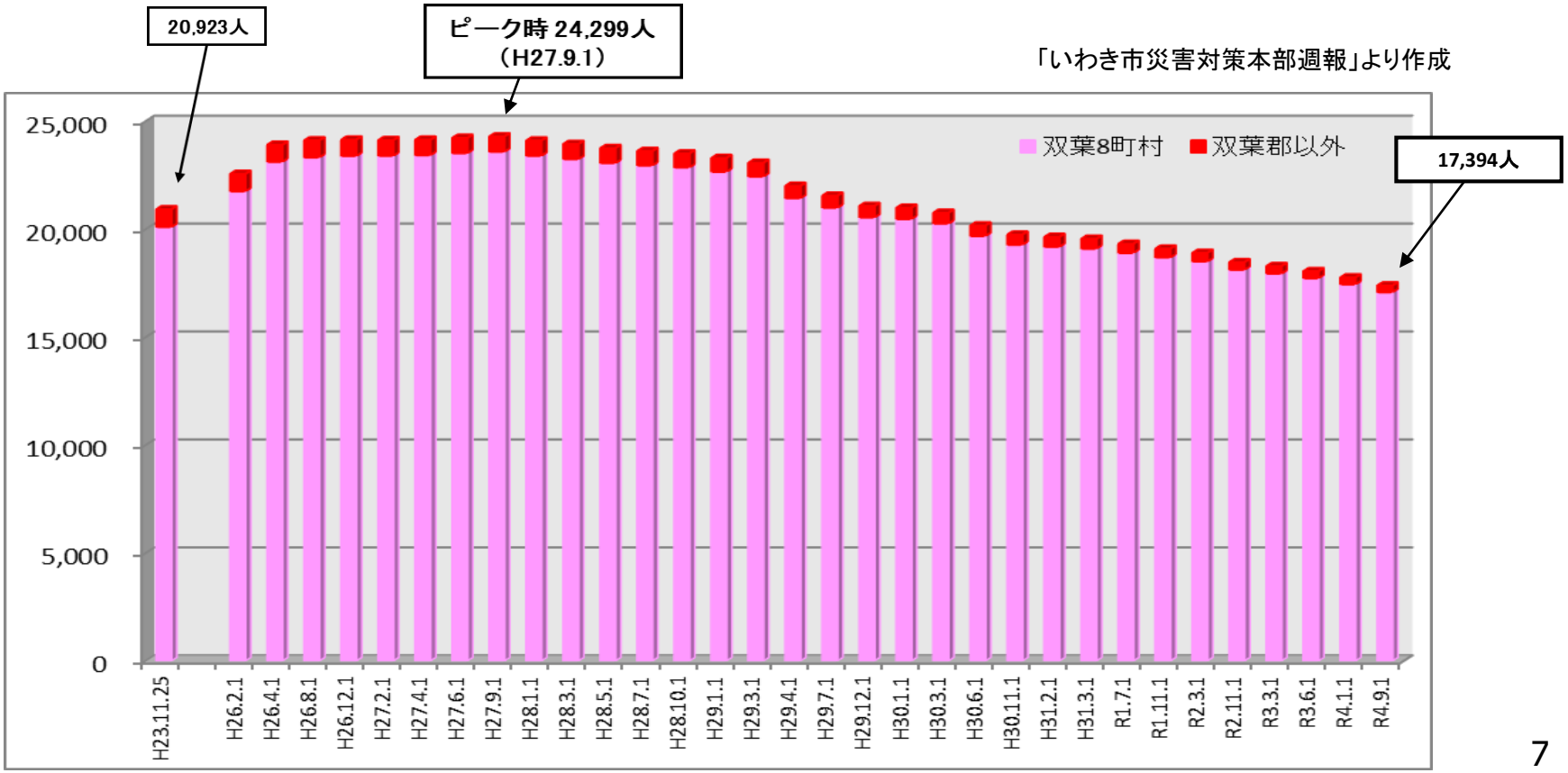
■いわき地域の現状■

原発被災地である双葉郡等から、いわき市内に避難している避難者数の推移（人）

- 現在ではおよそ1万8000人の方々がいわき市へ避難している
- 29年3月に双葉郡一部の町村で、仮設住宅・家賃補助が終了し、帰還が進んでいる

⇒ 当初（H23.11.25）：双葉郡以外 818＋双葉8町村 20,105＝20,923（人）
⇒ ピーク（H27. 9. 1）：双葉郡以外 709＋双葉8町村 23,590＝24,299（人）
⇒ 現 在（R4. 9. 1）：双葉郡以外 309＋双葉8町村 17,085＝17,394(人）

「いわき市災害対策本部週報」より作成



■現在抱える課題①-1■

⋆いわき市の方々→ 津波等により**約8,000棟が全壊被害**
⋆双葉郡等の方々 → 福島第一原発事故の影響により
（原発避難）　　約20,000人が避難（震災直後）

◆いわき市の方々へ向けて：
⇒市営災害公営住宅1,５１３戸整備（全戸完成・H28.3）

◆市外から避難されている（双葉郡等の）方々へ向けて：
⇒新たな生活拠点の早期整備と住環境つくり
*生活拠点 ・・県営復興公営住宅（1,６７２戸整備）
*住環境 ・・・道路や商業施設など生活を支える環境整備

内郷宮沢地区「県営宮沢団地」

■課題解決へ向けた取組①-1■

«コミュニティの維持»

愛のかけ橋フラワープロジェクト
「花植え交流会」(H30. 11)

季節に応じた交流会及びお茶会
「クリスマス会＆忘年会」(H30.12)

◆被災者支援NPOへの支援

◆コミュニティ交流員の配置
（いわき市内9名・R4.3現在）

◆コミュニティの維持・再構築の支援

◆市町村社協の生活支援相談員の配置
（R4：17社協106名）

市町村社協の避難者地域支援
コーディネーターの配置
（R4：17社協26名）

コミュニティの維持

■課題解決へ向けた取組①-1■

いわき大交流フェスタを、県主催で開催

地元団体、双葉郡の団体によるステージショー

パラスポーツなどで、地域や世代を超えた交流

地元高校による、ロボット体験も

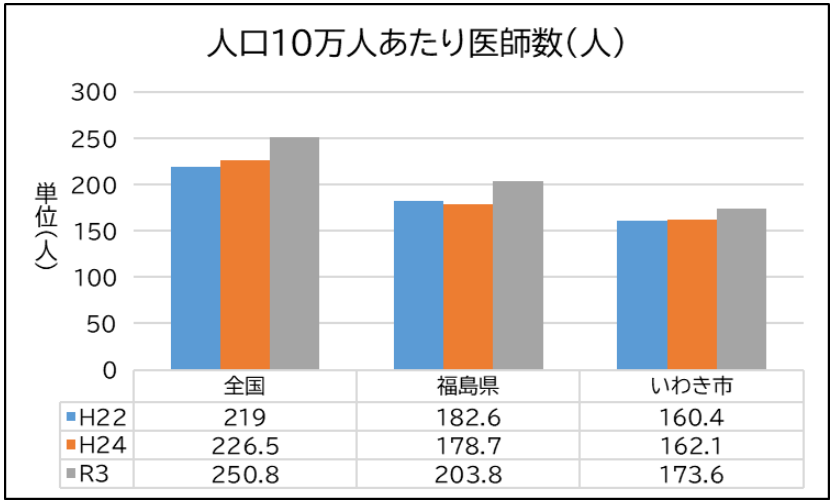
NPOや避難自治体主催のサロンが集結

福島の未来を感じる体験

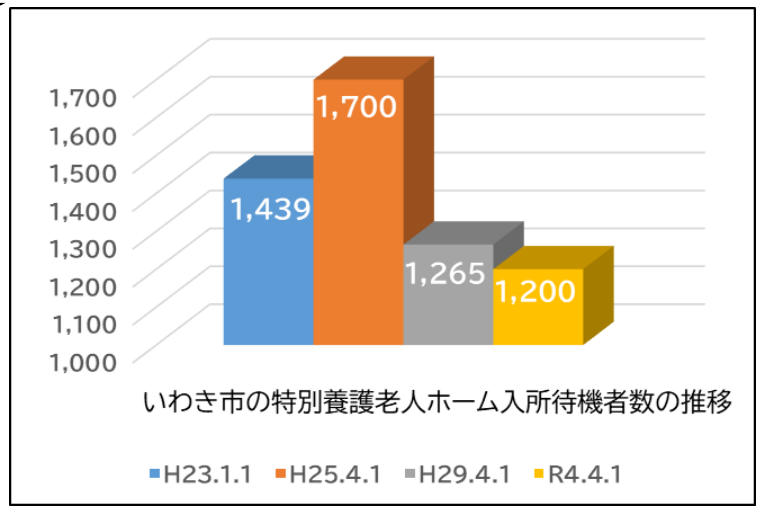
■現在抱える課題①-2■

●受入避難者増加による人口の増加

医療・福祉分野におけるサービス提供機能への影響



	全国	福島県	いわき市
H22	219	182.6	160.4
H24	226.5	178.7	162.1
R3	250.8	203.8	173.6



●避難生活の長期化

長期避難者への健康支援、メンタルケア

■課題解決に向けた取組①-2■

保健福祉行政機能の確保

★相双保健福祉事務所いわき出張所を開設（**H24.6** 県いわき合同庁舎内）
★いわき市に避難している方々への支援に係るいわき市と避難元市町村の調整

健康支援

★避難元市町村が実施する保健事業への協力、専門職の派遣
★仮設住宅・借上住宅への巡回訪問等による健康支援の実施
★いわき市1歳6ヶ月児・３歳児健康診査への協力
★市町村保健事業担当者会議の開催、健康づくり・介護予防事業の実施
★復興公営住宅入居者支援実務者会議の開催

心のケア

★ふくしま心のケアセンターいわき方部センター（H24.4開所）と連携して訪問による健康支援等を実施
★被災者支援に携わる支援者支援のためのグループミーティングを開催
★自殺予防ゲートキーパー養成研修会を開催

障がい児・者対策

★相双地域障がい児・者支援関係者会議を開催
★相双地域等からの避難者が利用している障がい児・者関係事業所等を訪問
★療育支援に係る福祉担当者会議を開催

高齢福祉対策

★介護予防関係実務者会議を開催
★４町（富岡町・大熊町・双葉町・浪江町）連携による介護予防等事業の実施

■現在抱える課題②■

観光誘客

● 観光業への影響

⇒令和3年の観光客入込数

３８１万人

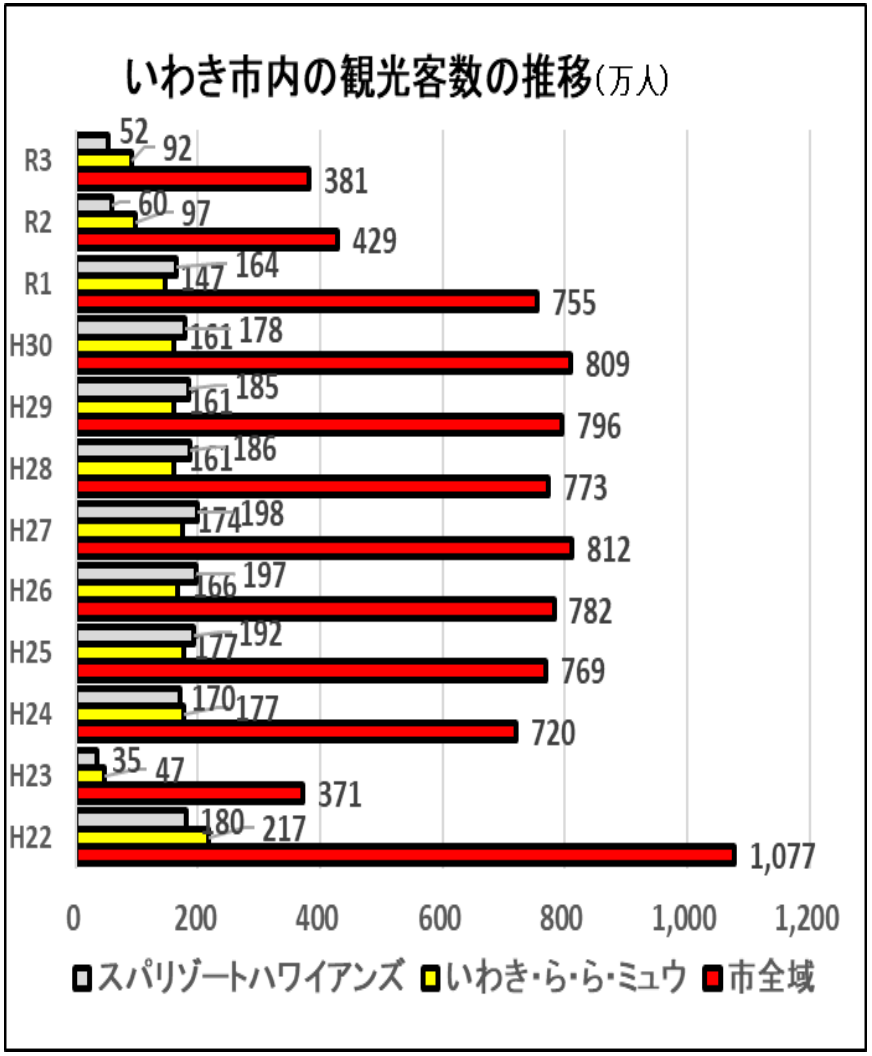
新型コロナウイルス感染症による、さらなる観光業への打撃

※令和元年の観光客入込数

７５５万人（震災年の2倍）

震災前の平成22年に比べると、

３１９万人以上少ない



■現在抱える課題②■

産業への風評対策

● **農林水産業への影響（R4.11現在）**

⇒ **いわき市農産物の出荷制限品目数＝7品目のみ**

たけのこ、ぜんまい、たらのめ（野生のものに限る）、こしあぶら、
わらび（野生のものに限る）、野生きのこ、原木なめこ（露地栽培）
※わらび（栽培）は該当生産者15名のほ場に限り出荷制限が解除

⇒ **いわき市海産魚介類の出荷制限品目数＝1品目のみ**

クロソイ

平成30年6月より、首都圏のイオン15店舗で「福島鮮魚便」コーナーを展開。
ほか、愛知・大阪・広島・新潟の店舗で毎月または期間限定で展開を行っている。
いわきの豊かな漁場で水揚げされたカツオやヒラメを販売するなど、県と漁連、企業による福島県産の水産物のPRも行われている。

■課題解決に向けた取組②-1■

令和元年産いわき市産米の全量全袋検査

集計結果　令和元年産
いわき市　検査点数　437270　点

〈スクリーニング結果〉

	25Bq/Kg（測定下限値）未満	25～50 Bq/Kg	51～75 Bq/Kg	76～100 Bq/Kg	計
検査点数	437,260	0	0	0	0
割合	99.9977%	0.0000%	0.0000%	0.0000%	99.9977%

ふくしまの恵み安全対策協議会より

全量全袋検査 → H27から5年間基準値以下 → 令和2年度～ モニタリング検査＊

※全量全袋検査を継続する12市町村
田村市、南相馬市、広野町、楢葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯舘村及び川俣町（旧山木屋村）

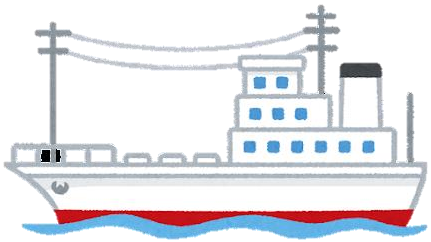
試験操業の取組

◆7万件超のモニタリングの結果
◆平成27年4月以降基準値以下
} 安全を確認

↓

令和3年4月からは本格操業に向けた移行期間

※現在においても、販売・出荷される水産物は県漁連が中心となって放射線検査を行っている。



■課題解決に向けた取組②-1■

情報発信・誘客推進

いわきの風評対策モニターツアーの開催

「いわきの今を見に行く！モニターバスツアー」

誘客推進

◆令和2年度　浜通り観光再生事業
◆令和3年度　アフターコロナを見据えた地域づくり事業
◆令和4年度　いわきの強みを活かした持続可能な地域づくり事業
など

■課題解決に向けた取組②-2 ■

地域の特性を活かしたイベントの開催

「常磐もの」ほかいわき名物の提供、いわき産食材の販売・実食体験、
フラショー、伝統芸能・じゃんがら念仏踊りの披露、ゆるキャラショーなど

開催：H30.6.2(土)～3(日)
来場者数：約5,000人

**「いわきの夏！観光キャンペーン」
inイオンモール幕張新都心**

イオンモールいわき小名浜のPRやフラステージショー、いわき産品販売などいわきの魅力をPRすることにより、いわき市の観光交流人口の増加につなげることを目的として、いわき観光共同キャンペーン実行委員会と福島県の主催、イオンモール株式会社の共催で開催

開催：R1.8.16(金)～20(火)
来場者数：約4,500人

**「夏のいわき盛りだくさんフェスタ」inミデッテ
「いわきの梨・トマトフェスタ」in東京都庁**

いわき市の有名シェフや生産者等と連携して、いわき市の多彩な魅力を発信し、震災以降低迷しているいわき市の交流人口の拡大及び風評払拭、販路拡大等を図るために、日本橋ふくしま館MIDETTEや東京都庁でPRイベントを開催。
交流会や振る舞いを中心に様々な企画を実施した

■課題解決に向けた取組②-3 ■

現地視察の受入（23年度10月開始～。25年度までは行政機関のみ受入）

→ **3つのメニュー**により、団体と受入先をマッチング

★メニューA：市内の被災状況と復旧・復興に関する全体説明会

（担当：いわき地方振興局・いわき建設事務所職員）

★メニューB：施設の担当者による状況説明

施設例） アクアマリンふくしま /いわき・ら・らミュウ /
ワンダーファーム /いわき菌床椎茸組合 /
日産いわき工場 / スパリゾートハワイアンズ /
石炭・化石館ほるる / いわき市アンモナイトセンター

★メニューC：ＮＰＯ法人などによるスタディツアー

Fスタディーツアー

≪これまでの受け入れ実績≫

・平成23年度	：	5	団体	29 名
・平成24年度	：	80	団体	1,900 名
・平成25年度	：	98	団体	2,197 名
・平成26年度	：	54	団体	1,173 名
・平成27年度	：	48	団体	1,200 名
・平成28年度	：	38	団体	925 名
・平成29年度	：	26	団体	460 名
・平成30年度	：	34	団体	762 名
・令和元年度	：	19	団体	411 名
・令和２年度	：	0	団体	0 名
・令和３年度	：	2	団体	48 名
・令和４年度	：	6	団体	196 名
累計	：	410	団体	9,301 名

（R4.11.30現在）

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により受入実績はなし

■産業復興へ向けた取組■

各分野の研究拠点を活用し、先端産業の集積を推進しています。

「福島イノベーション・コースト構想」とは、東日本大震災及び原子力災害によって失われた浜通り地域等の産業を回復するために、新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクトです。

Fukushima Innovation Coast Framework

福島イノベーション・コースト構想　主要プロジェクト

プロジェクト1　国内外の英知を結集した技術開発

廃　炉

廃炉作業などに必要な実証試験を実施する「楢葉遠隔技術開発センター」

廃炉に向けた研究開発・人材育成を行う「廃炉国際共同研究センター」

放射性廃棄物の処理・処分に向けた分析研究を担う「大熊分析・研究センター」

プロジェクト2　福島ロボットテストフィールドを中核にロボット産業を集積

ロボット・ドローン

陸・海・空のフィールドロボットの使用環境を再現した福島ロボットテストフィールド

2020年にロボットの技術やアイディアを競う「ワールドロボットサミット」を開催

ロボット・ドローンの実証試験や操縦訓練の場として、浜通り各地を仲介

プロジェクト3　先端的な再生可能エネルギー・リサイクル技術の確立へ

エネルギー・環境・リサイクル

浜通り地域等全体において、再生可能エネルギーの計画的かつ円滑な導入促進を図るとともに、太陽光発電や風力発電が連系する共用送電線を整備して再生可能エネルギーの導入を加速化

燃料電池自動車等の水素モビリティの普及に対応する水素ステーション

プロジェクト4　ICTやロボット技術等を活用した農林水産業の再生

農林水産業

ICTを活用した農業モデルの確立へ向けたネギなどの業務加工用野菜の栽培

太陽光発電設備と室内温度調整にAI技術を用いた施設でコチョウランを栽培

栽培漁業の推進や資源管理の高度化等の新たな試験研究に取り組む「水産資源研究所」

プロジェクト5　技術開発支援を通じ企業の販路を開拓

医療関連

がんを中心とした諸疾患の新規治療薬等の企業の開発を支援する「医療－産業トランスレーショナルリサーチセンター」

医療機器の開発から事業化までを一体的に支援する国内初の施設「ふくしま医療機器開発支援センター」

企業へのマッチング、コンサルティング支援による医療機器分野への参入促進や、更なる技術開発への支援など、事業化への積極的な支援を実施

プロジェクト6　"空飛ぶクルマ"の実証や関連企業を誘致

航空宇宙

航空宇宙関連産業の技術交流や商談、普及啓発を目的に開催している「航空宇宙フェスタふくしま」

(株)IHI相馬事業所（航空エンジンや宇宙開発関連機器などの部品の製造拠点）

■産業復興へ向けた取組■

- **福島イノベーション・コースト構想**とは

震災、原発事故によって失われた福島県浜通り地域の**産業・雇用を回復**するため、**廃炉やロボット技術**に関連する研究開発、**エネルギー関連産業**の集積、**先端技術を活用した農林水産業**の再生、未来を担う**人材の育成強化**などを通じて新たな産業・雇用を創出し、**住民が安心して帰還し、働けるよう**、浜通り地域の再生に取り組む、**福島復興再生特別措置法に定められた国家的プロジェクトです。**

福島国際研究産業都市区域（浜通り地域等15市町村）
いわき市、相馬市、田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楢葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、新地町、飯舘村

福島ロボットテストフィールド（南相馬市）

福島イノベーション・コースト構想に基づき整備。
陸・海・空のフィールドロボットを主対象に、実際の使用環境を拠点内で再現しながら研究開発、実証試験、性能評価、操縦訓練を行うことができる、世界に類を見ない一大研究開発拠点である。

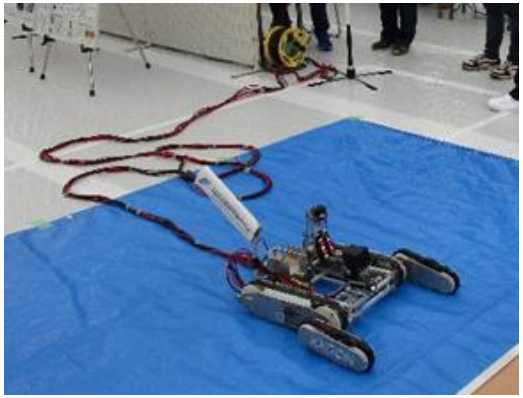
■産業復興へ向けた取組■

福島イノベーション・コースト構想を担う人材育成・企業等の参画促進

◆人材育成
県内企業による、県立高校4校（平工業、勿来工業、川俣、小高産業技術）への教育プログラムを、H30年より開始。また上記とは別に、福島高等専門学校は、ロボット製作で廃炉ロボコンなどへ参加。

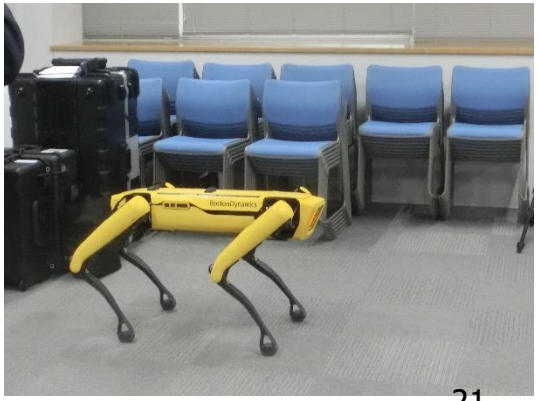
ドローンによる測量

プログラミング体験



廃炉ロボコン参加

◆企業等の参画促進
いわき地域等福島イノベーション・コースト構想企業参画促進事業



■震災後の地域の新たな取組①■

スポーツによる人・まちづくりの推進

福島県いわき市スタジアムを中心としたまちづくり基本計画
（H29年4月～R4年3月）

「スポーツの力でいわき市を東北一の都市にする。夢・感動・未来づくり」共同宣言（H29年7月）

「スポーツによる人・まちづくり推進協議会」設立（H29年10月）
＜協議会発起人＞
いわき市長、いわき商工会議所、いわき地区商工会連絡協議会、
公益社団法人いわき青年会議所、
NPO法人いわきサッカー協会、
株式会社いわきスポーツクラブ

市民の健康増進
未来を拓く人財の育成
シティセールス・都市ブランド力向上
いわきFCの応援

■震災後の地域の新たな取組②■

農福商工連携・着地交流体験型いわきワイナリー事業

「いわきワイナリーガーデンテラス＆ショップ」（H30年7月）

いわきワイン推進協議会による

- 「いわき産ワイン」のブランド化
- 着地型観光によるいわき市への誘客促進
- 障害者雇用の促進

■震災後の地域の新たな取組③■

大型商業施設を中心とした、小名浜地区の活性化

いわき市とイオン株式会社「地域活性包括連携協定」締結（H30年4月）

「災害対策、防災・防犯」
「こども・高齢者・障害者支援」
「市政情報の発信及び観光情報の発信」
「地産地消の推進及び産品の販売促進」
「環境保全・環境活動の支援」
「ICカードの活用」
の8項目において、緊密な連携、災害に強い街づくりの推進に取り組んでいる

小名浜港周辺のにぎわいづくり

・新しいランドマークとして、「小名浜マリンブリッジ」の整備（H29年4月）
・小名浜まちづくり市民会議、株式会社まちもりシオカゼによる、 汐風竹町通りをはじめとする、まちなか活性化事業

■震災後の地域の新たな取組④■

いわき市震災メモリアル事業

「いわき震災伝承みらい館」開館（R2年5月30日）

・「記憶の記録化」、「記録の記憶化」

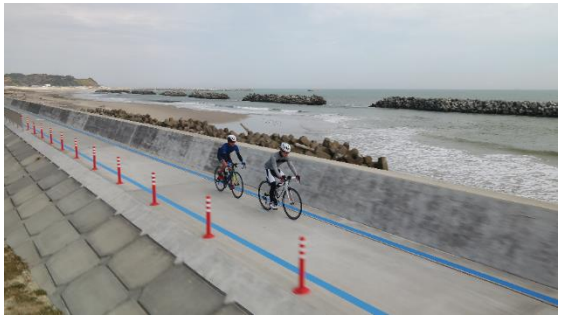
・震災の記憶や教訓を風化せず後世に伝えていく

・危機意識や防災意識の醸成を図る

■震災後の地域の新たな取組⑤■

復興サイクリングロード「いわき七浜街道」約53km全線開通（R3.3.28）

・復旧・復興事業で建設した防波堤や既存の道路を活用
・自転車を活用した健康増進、観光交流人口拡大を図る



いわき地方振興局の自転車利活用事業

・中山間地域を舞台としたサイクリングコースの造成、魅力発信
・サイクリングを活用した観光交流人口の拡大
・「サイクリング」を通じた健康増進効果についての実証実験の実施
・中山間地域等でタンデム自転車やeバイクの試乗会等ミニイベントの定期開催

ご清聴ありがとうございました

ひとつ、ひとつ、
実現する
ふくしま